

技術報告会静岡大学技術部長挨拶

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, 雅和 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00025262 |

技術報告会 静岡大学技術部長 挨拶

技術部長 木村雅和

皆さん、おはようございます。ご紹介頂きました技術部長静岡大学の研究・社会産学連携担当理事の木村でございます。第23回の技術報告会の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げたいと思います。近隣大学からも多くの技術職員の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。このごあいさつの中で、平成30年の改組について簡単に説明を…というご指示でございますので、少し話をしたいと思います。先ほどの学長の話でもございましたが、技術部は平成24年度に全学一元化に向けまして組織化をスムーズにするために、各部局の技術部を集約する形で各部局準拠型の技術部という形でスタートしたわけですが、平成30年度の改組は全学の支援を意識した再編ということで、静岡分室・浜松分室というくくりをやめて、中核となる技術を定めたうえで「ものづくり・フィールド系」、「情報機器分析系」、「教育研究支援系」といった3つの系の下に6つの部門を配置するという形で再編していくとい風に考えています。またこの技術部の再編に伴いまして、統括技術長の名称を変え、よりその管理的な仕事をさせていただくということを含めまして、技術長との兼務はやめるということで統括技術長は技術部次長という風に変更させていただきながら、なおかつ技術長のポストを2から3に1つ増やすことができるようになりました。これは決してトップダウンで決めてきたというわけではなくて皆様の中でいろいろ議論を重ねていただいたうえでそういった形で進めていくこととなり、特に共同利用機器の利用に関してより積極的に連携していくということとか、あるいは技術専門職という意味で言うと大学の中の知的財産業務を行う専門家の育成などの新しい取り組みも進めていきたいと考えています。第三期中期計画にも書かれていますけれど、技術部技術職員の皆さんの業務活性化に対応していけたらと思っております。

これからの静岡大学の発展にとっては、技術部の存在というのは大変重要であると認識しておりますので、ますます皆さんの技術を磨いていただくということと、各部局との連携を進めていただくことをお願いするとともに、本日の技術報告会が参加いただいている皆様の今後の活動にとって有意義になりますことを祈念して、簡単ではございますけれども私からのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。